

「IR支援システムのための学務事務システムのローデータ活用とその問題点」

島根大学 教育・学生支援機構 教学企画IR室
 ○中鉢 直宏
chubachi@soc.shimane-u.ac.jp

【背景】

高等教育機関において**質保証**や**エビデンス**の必要性⇒組織内に機関調査としてのIR (Institutional Research) 機能が**不可欠**

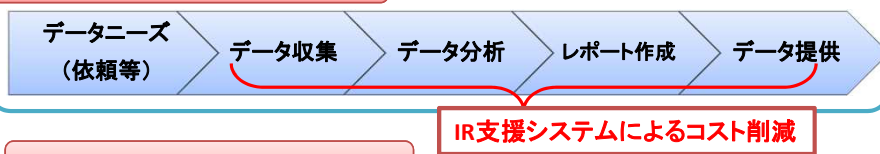
【大学のデータ分析で抱える課題】

- ・**増える指標**
 質保証制度, 認証評価制度, 国立大学法人評価, 大学ポートレート
- ・**データ作成のコスト**
 データ分析の需要増加と更新作業⇒**運用コストの増加**
- ・**高度な分析**
 教育内容評価の増加, エンrollment・マネジメント

先行事例・参考文献

雨森聡, 松田岳士, 森朋子(2012)“教学IRの一方略—島根大学の事例を用いて—”, 京都大学高等教育研究第18号, pp.1-10
 山田礼子(2013)“教学マネジメントを支えるIRの意味と役割”『リクルートカレッジマネジメント』, 181, pp.42-47.
 中鉢直宏(2014)“島根大学におけるIRデータ分析における課題「大学データに潜む断層と亀裂」についての一考察”, 大学情報・機関調査研究集会論文集, 3, 48-53.
<http://www.microsoft.com/ja-jp/casestudies/yamagata-u.aspx>
 (2014.12.5アクセス)

【本学の基本的なIR活動の流れ】

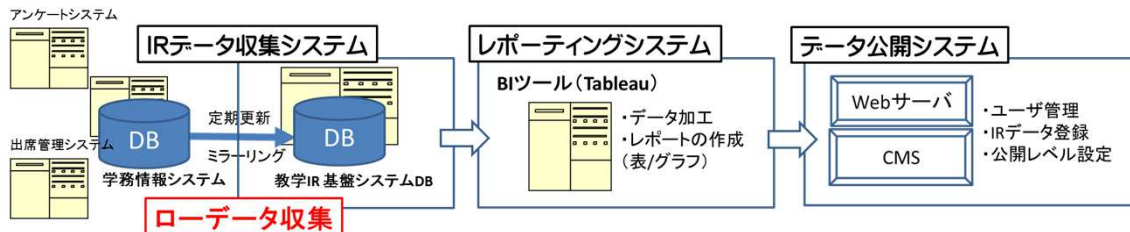


【IR支援システムとは】

教育機関におけるIR活動を支援するシステム
 例: 山形大学: エンrollment・マネジメント用にシステムを構築(2010年),
 島根大学: 教学IR基盤システム(2014年)

【島根大学】「教学IR基盤システム」

学務事務(事務)システムからローデータを取得, BIツールによるデータ加工, レポート作成, 認証ごとの公開レベル設定



ローデータ活用の目的

【ローデータ】

事務システムの**未加工**の入力データ(DBのテーブルやcsvなど)

【既存のデータ取得から分析のながれ】

・事務システム⇒登録データ抽出(csvファイル)⇒データ統合・加工⇒データ分析

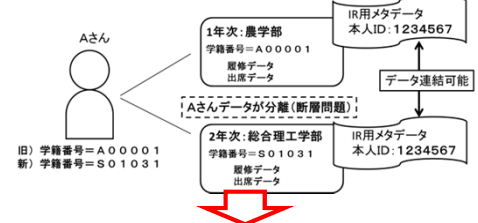
【IR支援システムからのデータ取得】

・ローデータ(=IR支援システムDB)⇒DBのテーブルを直接加工・統合・分析

1ステップ

データ作成の自動化

大学データの亀裂問題(組織縦割りによる断層)



同一人物の履歴が断層

M52	専門共通科目	TD	専門基礎科目
M53_54	初等教育開発専攻	T1	物質科学科
M55	心理・臨床専攻, 臨床心理特別副専攻	T2	地球資源環境学科
M57	特別支援教育専攻	T3	数理・情報システム学科
M59.60	言語教育専攻	T4	機電・電気電子工学科(平成24年度以後入学)
M61	共生社会教育専攻	T5	建築・生産設計工学科(平成24年度以後入学)
M63	数理基礎教育専攻	T8	理工特別コース(学部共通)
M65	自然環境教育専攻	T	集中講義科目一覧
M67_68	人間生活環境教育専攻		
M69	健康・スポーツ専攻		
M71_72	音楽教育専攻		
M74	美術教育専攻		

学部ごとに異なる科目IDのルール

【学務事務システムのローデータを扱う問題点】

【データ入力揺れ】

「Ⅲ」⇒「Ⅲ」, 「ヴ」⇒「ウ」, データ入力の不備

【システムの課題】

あくまで業務のためのシステム
 運用7ヶタ⇒登録データ用フォーマットが8ヶタ
 整合性をチェックする仕組み有無(登録項目, null項目の許可)

【大学運用的課題】

大学環境の変化(カリキュラム改革, 学部の統廃合, 新学部)⇒断層問題
 運用単位(縦割り組織)のデータ管理⇒亀裂問題
 多様な学生の遷移や属性
 (転学部, 転学科, 進学, 編入, 休学, 副専攻, デュアルディグリー対応)

【学情システム利用者の課題】

データへの配慮不足, 意識不足(データIDの決定方法)
 データ登録は業務のため(業務に関係ないデータは入力しない, 不開講)
 ⇒二次利用への配慮はほぼ皆無, システム利用者の単年度思考

IRとしてのデータへの積極的関与の必要性

【結論】

業務としてのデータ入力とIR側の求めるデータの意識差のギャップ差がローデータからIRデータの作成の弊害とたりにかねない。